

「花尾小学校の岩戸^{ほうそうおどり}疱瘡踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立花尾小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計23名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年11月14日・12月2日 総合的な学習の時間 本校体育館
令和2年11月16日～12月2日 昼休み時間の時間帯 本校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和2年12月3日 花尾っ子フェスタ 本校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

「岩戸疱瘡踊り（いわとほうそうおどり）」

(2) 由来

岩戸疱瘡踊りは、藩政時代から踊り継がれてきた古い踊りであると言われている。昔、恐ろしい伝染病である天然痘が蔓延したことがあり、その予防と早い治癒を願って踊るもので、真剣な祈りの心が込められた優雅な踊りである。天然痘が絶滅し、踊りも一時途絶えていたが、終戦後に復活し、今では地域の行事や地区の文化祭などで踊られている。

平成17年に鹿児島市の無形民俗文化財に指定された。

(3) 構成等

この踊りは、前踊りと後踊りで構成されている。前踊りは、手踊り20名くらいに太鼓打ちと太鼓持ちが6組ほどで、三味線に合わせて踊り、手踊りの中に傘踊りも入る。後踊りは、黒装束の3名の大シベ持ちがいて、そのシベ持ちの後ろに踊り子がつく。踊り子は小シベを持ち、横3列から4列ぐらいでシベ踊りをする。その後、踊り子が円になって踊り、大シベ持ちは円の中に入る。音楽は三味線と太鼓と拍子木等を使う。

5 保存会や地域との連携の具体例

総合的な学習の時間に、花尾地域固有の良さに気付き、伝承していくことの大切さを自分事として受け止め、よりよい解決を目指して行動する一連の探究活動の過程に、踊りの練習（体験活動）を位置付けた。講師は岩戸自治会の疱瘡踊り保存会にお願いし、今年度は土曜授業日を含めて2回指導をしていただいた。子どもたちは学習発表会前には、昼休み時間を活用し自主的に練習した。踊りに必要な用具（傘や太鼓、箆）は、保存会から借用している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら岩戸疱瘡踊りを継承していくために、3年から6年まで4年間学ぶ。保存会の方から学んだ踊りや太鼓打ちを4年間実践す

ることで、高学年が新しく学ぶ3年に指導することができるようになる。

平成27年度までは、3年以上の女子が踊りだけを披露していたが、本来の形である太鼓踊りも復活させたいという地域の願いから、平成28年度から3年以上の男子が太鼓踊りを担当した。昨年度までは、発表の場を学習発表会及び花尾地域ミニ文化祭のプログラムの中に位置付けた。今年度は「花尾っ子フェスタ」で約40名の保護者および地域の方々の前で披露することができた。

7 取組の実際



【11月14日 地域の方に教わり練習】【12月3日 花尾っ子フェスタ 太鼓踊り】



【12月3日 花尾っ子フェスタで疱瘡踊を披露する子どもたち】

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 練習では間違っただけだったが本番で間違わずに上手に踊れたので良かった。来年は下の学年に、振り付けをわかりやすく教えられたい。【5年女兒】
- 6年生に動きを教えてもらって、踊れるようになるのがうれしかった。【3年女兒】
- 子どもたちが伝統芸能を継承してくれることに感謝しています。これからも守り続けてもらいたい。花尾神社の大祭が中止だったので残念でしたが、花尾っ子フェスタでの発表とでもがんばってくれました。【保存会】
- 子どもたちに教えることができうれしい気持ちと守ってほしいという願いがある。発表はとても上手でした。【保護者】
- 児童数が少なくなっていますが、継承していけたらと思います。【教職員】